

令和2年度 足立区立学校国際コミュニケーション科に係る自己評価書兼学校関係者評価書

学校名 興本扇学園  
 学校長名 稲葉守朗  
 評価団体名 興本扇学園開かれた学校づくり協議会

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考え学ぶ人</li> <li>共に生きる人</li> <li>健やかに伸びゆく人</li> </ul>	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像等	学校像 児童・生徒像 教師像	・9年間を通したカリキュラムを実践し、将来、社会の一員としての役割を果たすために必要な能力・態度を身に付けた児童・生徒を育成する学校。 ・粘り強く、主体的・継続的に学ぶ子 ・心身ともに健康で、情操豊かな子 ・自己実現を図り、社会に貢献できる子 ・明るく誠実に職務に取り組む教師 ・一人一人の児童の良さを伸ばせる教師 ・児童・生徒が意欲的に学習できる、魅力的な授業を行える教師
前年度までの成果・課題	英語によるコミュニケーション能力を高める学習ではTokyo Global Gateway体験や明海大学留学生との交流授業を増やし、計画的に外国語によるコミュニケーション力を向上させることができた。国際理解を深める学習では、学年別の学習に加え、異学年で学ぶ機会を設定するとともに、地域関係者がゲストティーチャーとして参加することで、学習の深化と地域との連携を図ることができた。自らの生き方を考える学習では、国際的な環境問題を系統的に学び、持続可能な社会の実現に向け、自分たちができることを考えることができた。			

学習内容	具体的な取り組み	自己評価	来年度に向けた改善策	学校関係者評価
英語によるコミュニケーション能力を高める学習	英語で遊ぼう welcome to Tokyoを使った活動 Tokyo Global Gatewayでの活動 明海大学の留学生との交流 外国人へインタビュー 英語の絵本の読み聞かせ 歌、チャンツ、フォニックス 異学年による英語教え合い活動 ICT（タブレット端末）を使ったGTECなど対策 校内スピーチコンテスト	各期で到達目標を設定に基づき、低学年ではゲーム感覚で親しみ、3年生からはwelcome to Tokyoを使った活動や留学生など外国人との交流を行い、計画的に外国語によるコミュニケーション力を向上させるとともに、国際理解を深めることができた。7月に実施した足立区学力調査では、英語の平均正答率7年生87.9%（+2.2）、8年生64.2%（+5.7）、9年生71.8%（+4.9%）であった。また、達成率は7年生86.8%（+7.7）、8年生67.3%（+12.0）、9年生66.1%（+9.7）であった。ともに全学年とも足立区平均を上回った（カッコ内は足立区との比較）。8年生が実施したGTECではCFER-JのA1.3レベル以上の生徒が30.0%、A1.2レベル以上の生徒が76.0%であった。	新型コロナウイルス感染症のため、Tokyo Global Gatewayや異学年集団による英語教え合い活動などが実施できなかった。来年度は感染症予防対策を講じながら、活動を実施する。	新型コロナウイルス感染症収束後は、海外からの観光客も徐々に増加していくと考えられる。国際社会で生きていく子供たちにとって、外国語に親しむ機会や外国人と交流する機会は非常に大切である。子供たちが外国人と円滑にコミュニケーションがとれるよう、指導をしてほしい。
国際理解を深める学習	日本の伝統文化に関する学習（百人一首・ソーラン節・和太鼓） 世界の国々や文化の調べ学習（タブレット端末などを使用） 校外学習や宿泊学習・体験活動を伝える（鋸南・魚沼・日光・京都・奈良など） オリンピック・パラリンピック教育	日本の伝統文化に関する学習では、9年間を通して百人一首に親しませ、発達段階に応じて学習する首を増やした。新型コロナウイルス感染症感染拡大のため異学年で学ぶ機会は設定できなかったが、学級での活動方法を工夫し、伝統文化の理解を深めることができた。5、6年生では感染予防対策を講じながら和太鼓やソーラン節を学び、日本の伝統文化について理解を深めることができた。小学校では社会科見学や自然教室において口頭や紙上での発表を行った。中学生は校外学習が中止になり、事前学習やオリパラ教育においてプレゼンテーションソフトを活用した発表を行った。日本及び他国の文化を中心に、オリパラ競技種目の理解と表現力を向上させた。	新型コロナウイルス感染症の収束状況によっては、来年度も学校行事が制限されることが予測される。そのことを想定した計画を作成し、子供たちの活動を充実させ、理解力・表現力を向上させる。	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、今年度は百人一首大会が実施できなかったが、和太鼓では地域の協力者がゲストティーチャーとして関わることができた。今後も感染症予防対策を講じながら、地域と一緒に子供たちを育成する活動を継続してほしい。
自らの生き方を考える学習	解決方法を考えて発表する「幸せになるには」 情報教育・プログラミング 職業・キャリア教育に関するもの（夢の実現に向けて） 福祉に関するもの（バリアフリーなど） 表現活動（学園祭） 環境問題	環境問題を系統的に学び、持続可能な社会の実現に向け、自分たちができることを考えることができた。5年生はSociety5.0に取り組み、近未来について知ることにより2030年の学校の姿を考え、発表した。また、エコプロダクツが中止となったため、6年生と8年生でSDGsを考え、まとめ、発表する活動を実施した。新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、学園祭が実施できなかった。「幸せになるために」を9年間の目標とし、学年が上がるごとに視野を広げたテーマを設定し、仲間とともに解決方法を考えていく中で、対話する力、コミュニケーション力、国際理解力を身に付けた。I期は身近な社会を知る。II期は自分の夢の実現。III期は進路と職業について系統的に自らの考えを広げながら、知識や技能、表現力、プログラミング的思考力を習得することができた。特にIII期では9年生から8年生へのアドバイスを小グループで実施し、進路選択の重要性を伝えることができた。	休校期間や行事の中止など、様々な制約がある中で、ゆとりをもって学習を進めることができた。今年度の活動を基盤とし、事前準備の計画や、練習計画を見直し、学習との両立を図れるようにする。新型コロナウイルス感染症の影響で異学年交流が制限されたため、各学年との連携した教育活動が難しくかった。来年度は新型コロナウイルス感染症の影響があっても、各期で連携した学習を実施する。	学園祭が中止となり、子供たちの様々な表現活動を参観することができず、評価が難しかった。発達段階に応じた表現力を付けるために大切な機会と考えられるので、感染症予防対策を行いながら実施できる方法を考えてほしい。区のICT機器の整備が充実されつつあるので、情報教育を始め、更にICT機器を効果的に活用してほしい。